



川口市立在家中中学校 川口市大字安行領在家272番地
048(295)4102 FAX 048(295)5661
URL <http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/zaike-j/>



- ・心身ともにたくましい生徒
- ・自ら進んで学ぶ生徒
- ・豊かな情操を培う生徒

一年の終わりに時の流れの早さを思う

校長 鈴木 玲

サッカーの世界カップが中東・西アジアの国、カタールで開催されています。先月、開幕直前の頃にはワールドカップにおける日本代表の歴史を振り返るテレビ番組を目にする機会も多く、いわゆる「ドーハの悲劇」や「ジョホールバルの歓喜」などの映像が何度も流されていました。サッカーという競技に直接関わったことはありませんが、好きなスポーツの一つであることから多くのシーンが鮮明に記憶の中に残っています。「外れるのはカズ、三浦カズ…」ワールドカップ初出場時に当時の日本代表である岡田監督がメディアにこう発表したこともはっきりと覚えています。1998年、今から25年近く前のことです。当時、それはとても大きな衝撃でした。そして、2002年の日韓共同開催。本県の埼玉スタジアムでも世界各国の選手によって熱戦が繰り広げられました。「まるで昨日のこのように…」はさすがに言い過ぎですが、どちらも20年以上の月日が経ったとは思えません。

「月日が経つのは早いものだ」などと思いふけていると、同時に、「年齢を追うごとに1年が早く過ぎると感じるのはなぜだろう？」という疑問も湧いてきました。これは一般的にもよく言われていることですが、なぜそのように感じるのか、深く考えたことがありませんでした。19世紀のフランスに、このことを法則として説いた人物がいたそうです。〈**ジャンネーの法則**〉月日が流れる速さの体感、人が生きてきた年数に対する1年間の相対的な割合が大きいか小さいかに関係する、というのです。つまり、中学1年生、13歳の1年間が1/13年なのに対して、52歳の1年は1/52年であり、13歳の4倍速いと感じるのだそうです。中学1年生が9月1日の始業式から11月末まで過ごした時間の流れと同じ感覚かそれ以上の速さで私は1年間を終えてしまうということなのでしょうか。

ジャンネーの法則については、様々な要因によって同じ人物でも感じられる時間の長さが変わるなどといった批判もあり、実際には法則とまでは言い切れないのかもしれませんが、しかし、ジャンネーの法則を裏付ける要因を考えると「なるほど」と思えたりもします。体感的な時間の長短に関わっているのが、その人のもつ『知識や経験』なのだそうです。生まれてからの年月が短い年少者ほど身に付けている知識や経験が少ないのは当然のことです。その分、幼い頃は初めて経験することばかりで、毎日が発見や感動の連続でした。1日の中にこの発見や出会い、驚きや不安、こういった出来事や心の揺れが多ければ多いほど1日が長く感じられるというのは頷けます。このような多彩な1日が繰り返されていくうちに、すでに知っていること、以前経験したことが少しずつ増えていき、生活に新鮮味がなくなっていく。これが体感的な時間の早くなるからくりなのだそうです。

2022年もあと1か月で終わろうとしています。私のような年長者からすると「ついこの間、新年を迎えたばかりなのになあ(笑)」といった感じですが、生徒のみなさんや保護者の方々、若手の先生たちはどのように感じているのでしょうか。時間の流れを緩やかにするためには、自発的に行動する意欲と学び続ける姿勢が必要なのだと思います。今年1年が早く過ぎてしまったという人は新たな知識の習得や新鮮な体験、それらから生まれる感動が少なかったのかもしれませんが、2023年はこれまでと違ったことにチャレンジし、新しい出会いや発見による日々の生活の新鮮味を取り戻す。そして、在家中中学校に関わる全ての人たちが有意義で緩やかな時間の流れを感じることで、そんな2023年にしたいと考えます。



下校風景 ~春には満開だった桜の樹も
葉を落とし、すっかり冬の装いです